

特集：人工知能、IoT がもたらす新たな学習・教育・管理の促進

データ利活用人材育成プログラムの開発 ——データ利活用サービスのプロトタイプ作成支援環境の 開発とその実践——

米谷 雄介*, 米丸 浩一郎**, 樋川 直人***, 高橋 亨輔*,
後藤田 中*, 國枝 孝之*, 八重樫 理人*

Development of a Data Utilization Skill Development Program —Development of Prototyping Support Environment for Data Utilization Services, and Its Practical Use—

Yusuke KOMETANI*, Koichiro YONEMARU**, Naoto HIKAWA***, Kyosuke TAKAHASHI*,
Naka GOTODA*, Takayuki KUNIEDA*, Rihito YAEGASHI*

Citizen-centered design has been essential for global data utilization smart cities. We developed a data utilization skill development program, which contains a prototyping support environment for data utilization services. We implemented the program in a seminar course for general public. In this paper, we describe a usefulness of the program for creating ideas to solve regional problems using data based on results of the practice.

キーワード：スマートシティ、データ利活用、データ利活用人材、データ利活用サービス、FIWARE

1. はじめに

世界のデータ利活用スマートシティにおいては、課題解決による都市経営や、都市サービスの進化に市民が積極的に関与する市民中心設計が求められている⁽¹⁾。本研究ではデータを活用した課題解決や課題解決を実現するサービス（以下、データ利活用サービスと呼ぶ）の進化に貢献できる人材をデータ利活用人材と呼ぶ。豊かなスマートシティを実現するためには、データ利活用人材の育成が重要である。

一般に、サービス創出に関与する人材の多様性がサービスの価値を高めるといわれる。また、アイデア発想を促すためにサービスのプロトタイプを作ることは有効である。したがって、多様な背景を持つ学習者

がデータ利活用サービスのプロトタイプを作成でき、それらに基づくアイデア発想を可能にする教育プログラム（以下、データ利活用人材育成プログラムと呼ぶ）を整備することがデータ利活用人材育成に対し効果的であると考えられる。

本研究で実現を目指すデータ利活用サービスは、Web やスマートフォンなどのアプリとしてユーザに提供され、その開発には ICT や IoT といった技術の活用が前提となる。そのため、プロトタイプの作成には、プログラミング・センサに関する知識・スキルが必要となる。人材育成の目的には、高度な機能をもつアプリ開発と課題解決アイデアの活性化の2種類が考えられる。前者に対しては、アプリ開発に関わる知識・スキルを獲得させることが重要であり、学習支援

* 香川大学創造工学部 (Faculty of Engineering and Design, Kagawa University)

** 日本電気株式会社 (NEC Corp.)

*** かがわ県民情報サービス株式会社 (Kagawa Information Service Co., Ltd.)

受付日：2019年6月4日；再受付日：2019年11月5日；採録日：2019年12月24日